



2014年3月期通期

決算説明会資料

2014年5月15日(木)

ミツミ電機株式会社



2014年3月期通期 決算概要	P2
2015年3月期通期 業績予想	P10
今後の経営戦略	P16

【免責事項】

この資料は投資家の参考に資するため、ミツミ電機株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として作成したものです。

当資料に記載された内容は、2014年5月15日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化などの事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資に関するご決定は、当資料に全面的に依拠することはお控えいただき、皆様ご自身のご判断でなされるようお願い申し上げます。



2014年3月期通期 決算概要

取締役 常務執行役員 本社管理部門担当

齋藤 求

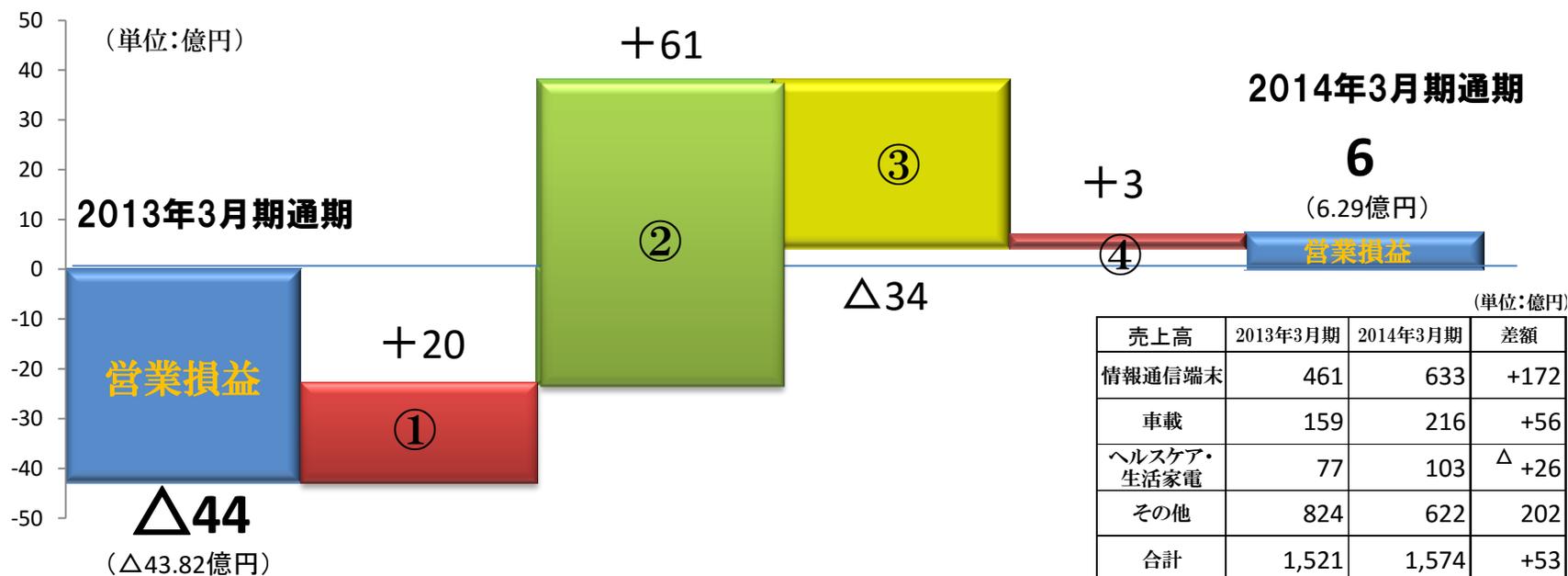
1. 売上高 : アミューズメント関連製品は減少したものの、情報通信端末、車載、ヘルスケア・生活家電が増加し、円安効果もあり53億円の増収
2. 営業利益 : 高付加価値製品の構成比上昇と変動費改善により、黒字化達成
3. 経常利益 : 営業利益の増益及び為替差益(17.1億円)により59億円の増益
4. 当期純利益 : 前期の特別損失要因解消及び当期の保険金の受取(17.7億円)による特別利益の計上などにより148億円の増益

	2013年3月期 通期		2014年3月期 通期		増 減	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	152,098	100.0	157,360	100.0	+5,262	+3.5
営業利益	△4,382	△2.9	629	0.4	+5,011	-
経常利益	△3,274	△2.2	2,632	1.7	+5,906	-
当期純利益	△11,545	△7.6	3,228	2.1	+14,773	-
為替レート (対米ドル)	82円33銭		99円75銭		17円42銭の円安	

■ 前期比 +50億円

事業ポートフォリオの入れ替えにより収益が改善しました。

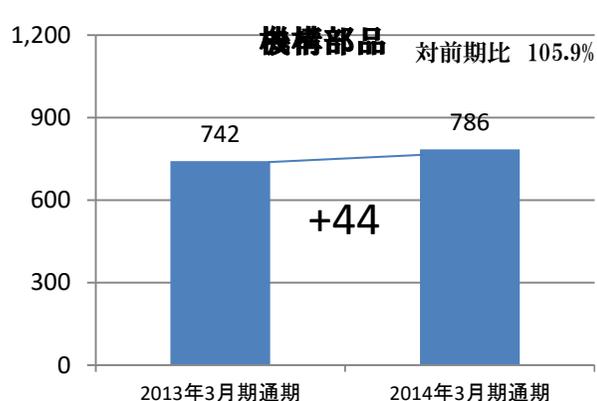
- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 売上高が53億円増加したことによる付加価値の増加 | +20億円 |
| 2. 高付加価値製品構成比の上昇と変動費改善による限界利益率の上昇 | +61億円 |
| 3. 円安による海外事業所運営コストの上昇 | △34億円 |
| 4. 減価償却費の減少 | +3億円 |



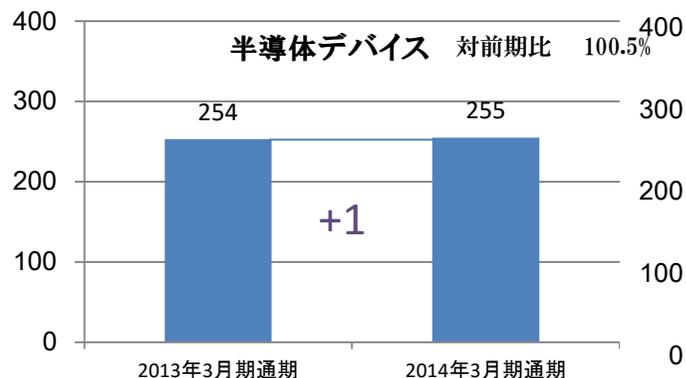
1. 売上高： 情報通信端末の立ち上がりが遅れたため、26億円の減少
2. 営業利益： 売上高の減少に対し経費節減により、1.7億円の減少に圧縮
3. 経常利益： 為替差損が見込みより減少し、6億円の増加
4. 当期純利益： 受取保険金(17.7億円)の計上等により、17億円の増加

	2014年3月期 通期 予測(2月6日発表)		2014年3月期 通期		予測比
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)
売上高	160,000	100.0	157,360	100.0	△2,640
営業利益	800	0.5	629	0.4	△171
経常利益	2,000	1.3	2,632	1.7	+632
当期純利益	1,500	0.9	3,228	2.1	+1,728
為替レート (対米ドル)	予測:99円66銭		99円75銭		—

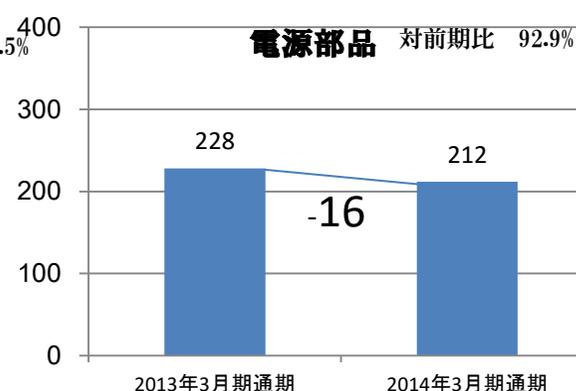
製品集計区分別売上高 2014年3月期 通期 決算概要



アクチュエータを中心に汎用品は増加
アミューズメント関連は減少

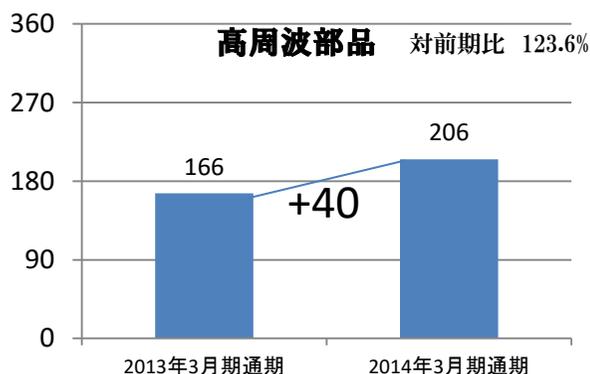


高付加価値のパッケージ品が増加
モジュール関連製品は減少

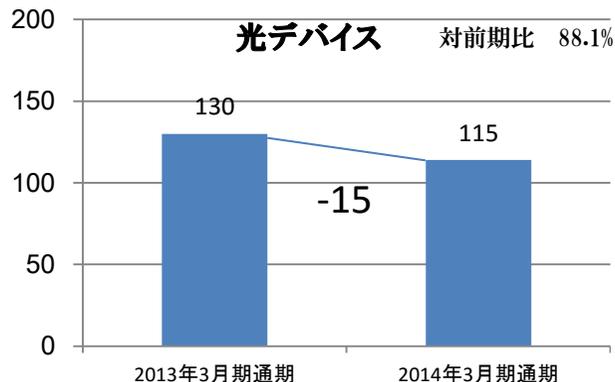


アミューズメント関連は減少
他用途向けは微増

(単位:億円)



車載関連の増加



アミューズメント関連は減少
情報通信端末・車載関連は増加

注1: 2014年3月期第1四半期より製品集計区分別を変更しており、従来区分掲記していた「情報通信機器(2013年3月期通期の売上高20億円、2014年3月期通期の売上高20億円)」は「機構部品」に含まれております。

注2: 対前期比の比率は円単位の金額を基準に算出しております。

1. 資産合計 : 大きな変化はない
2. 負債合計 : 退職給付に係る負債の新規計上(44.6億円)に伴う増加
3. 自己資本比率 : 自己資本比率72%を維持し、良好な水準にある

		2013年3月期		2014年3月期		増 減
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
資 産	現金及び預金	45,907	32.6%	46,317	32.4%	+410
	受取手形及び売掛金	34,449	24.5%	36,692	25.7%	+2,243
	棚卸資産	29,136	20.7%	27,627	19.3%	△ 1,509
	その他	2,470	1.8%	1,341	0.9%	△ 1,129
	流動資産	111,962	79.6%	111,977	78.3%	+15
	固定資産	28,649	20.4%	31,003	21.7%	+2,354
資産合計		140,611	100.0%	142,981	100.0%	+2,370
負 債	支払手形及び買掛金	20,524	14.6%	18,309	12.8%	△ 2,215
	その他	16,129	11.5%	15,647	10.9%	△ 482
	流動負債	36,653	26.1%	33,956	23.7%	△ 2,697
	固定負債	2,437	1.7%	6,033	4.2%	+3,596
負債合計		39,090	27.8%	39,989	28.0%	+899
純 資 産	株主資本	113,583	80.8%	116,783	81.7%	+3,200
	その他の包括利益累計額	△ 12,061	△ 8.6%	△ 13,790	△ 9.6%	△ 1,729
純資産合計		101,521	72.2%	102,992	72.0%	+1,471
負債・純資産合計		140,611	100.0%	142,981	100.0%	+2,370
自己資本比率		72.2%		72.0%		△ 0.2

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー : 黒字化の達成と棚卸資産圧縮により87億円増加
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー : 売上増加に伴う設備投資の増額によるキャッシュアウト
3. 現金及び現金同等物 : 黒字化達成により現金の減少傾向に歯止めがかかった

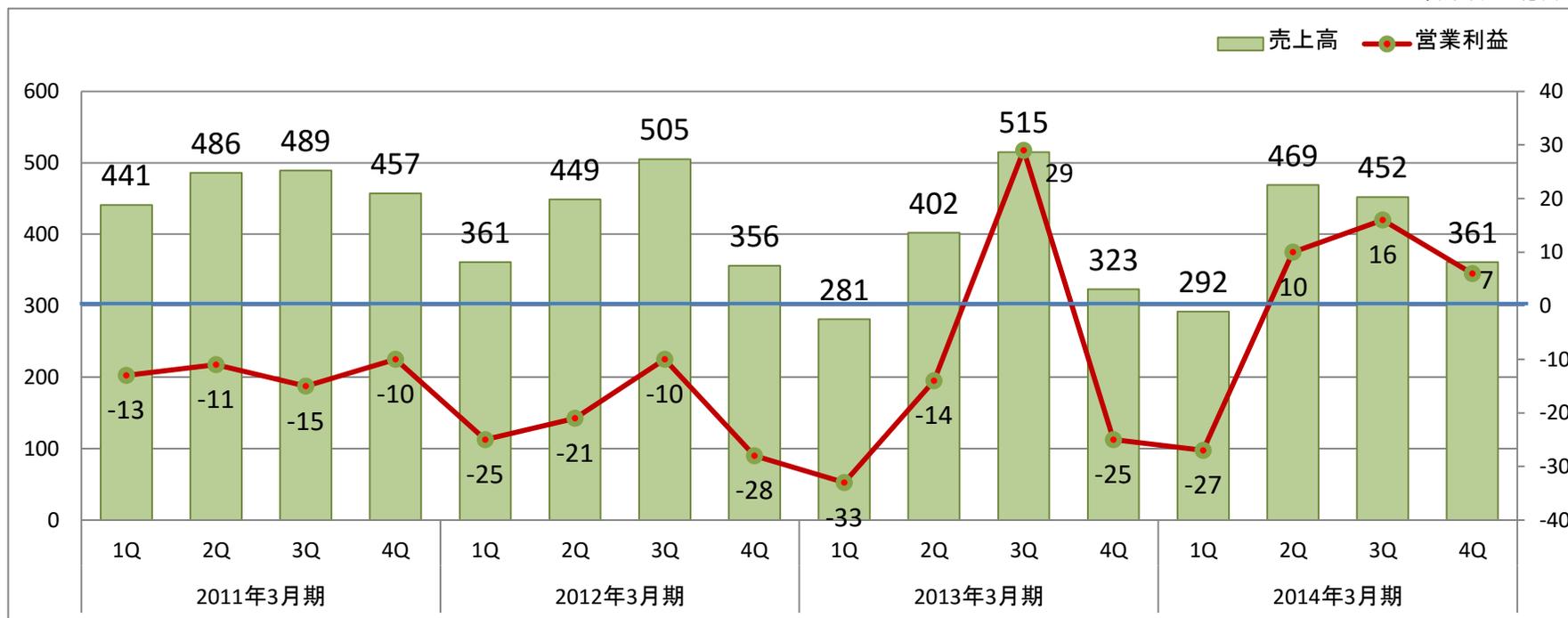
	2013年3月期通期	2014年3月期通期	増 減
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
税金等調整前当期純利益	△ 8,105	3,678	+11,783
減価償却費	6,852	6,526	△ 326
売上債権	7,733	△ 1,213	△ 8,946
たな卸資産	△ 8,872	2,319	+11,191
仕入債務	△ 4,338	△ 3,319	+1,019
その他	906	748	△ 158
営業活動によるキャッシュフロー	△ 5,824	8,739	+14,563
有形固定資産取得	△ 8,267	△ 10,303	△ 2,036
その他	485	277	△ 208
投資活動によるキャッシュフロー	△ 7,782	△ 10,026	△ 2,244
フリーキャッシュフロー	△ 13,606	△ 1,287	+12,319
財務活動によるキャッシュフロー	△ 4	△ 5	△ 1
現金及び現金同等物の増減額	△ 11,594	48	+11,642

1. 売上高 : 売上高の長期右肩下がり傾向に歯止めが掛ったとともに、製品構成の変化により四半期毎の季節変動が小さくなった。
2. 営業利益 : 高付加価値製品の構成比率の上昇に加え、事業構造改革の実施により損益分岐点を引き下げ、通期では黒字化を達成した。

四半期毎の売上高・営業利益

(売上高:億円)

(営業利益:億円)



※ 億単位未満を四捨五入



2015年3月期通期 業績予想

1. 売上高 : 重点市場製品の拡大でアミューズメント・AV関連製品の減少を補い76億円増加
 2. 営業利益 : 重点市場製品の中でも高収益製品の増加により24億円増加

	2014年3月期通期 実績		2015年3月期 通期 (5月12日発表)		増 減	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	157,360	100.0	165,000	100.0	+7,640	+4.9
営業利益	629	0.4	3,000	1.8	+2,371	+376.3
経常利益	2,632	1.7	2,000	1.2	△632	△24.0
当期純利益	3,228	2.1	1,500	0.9	△1,728	△53.5
為替レート (対米ドル)	99円75銭		103円前提		3円25銭の円安	

1. 売上高 : アミューズメント関連および特定顧客向け情報携帯端末関連の受注が減少
2. 営業利益 : 高収益製品の構成比率の上昇で2億円の改善

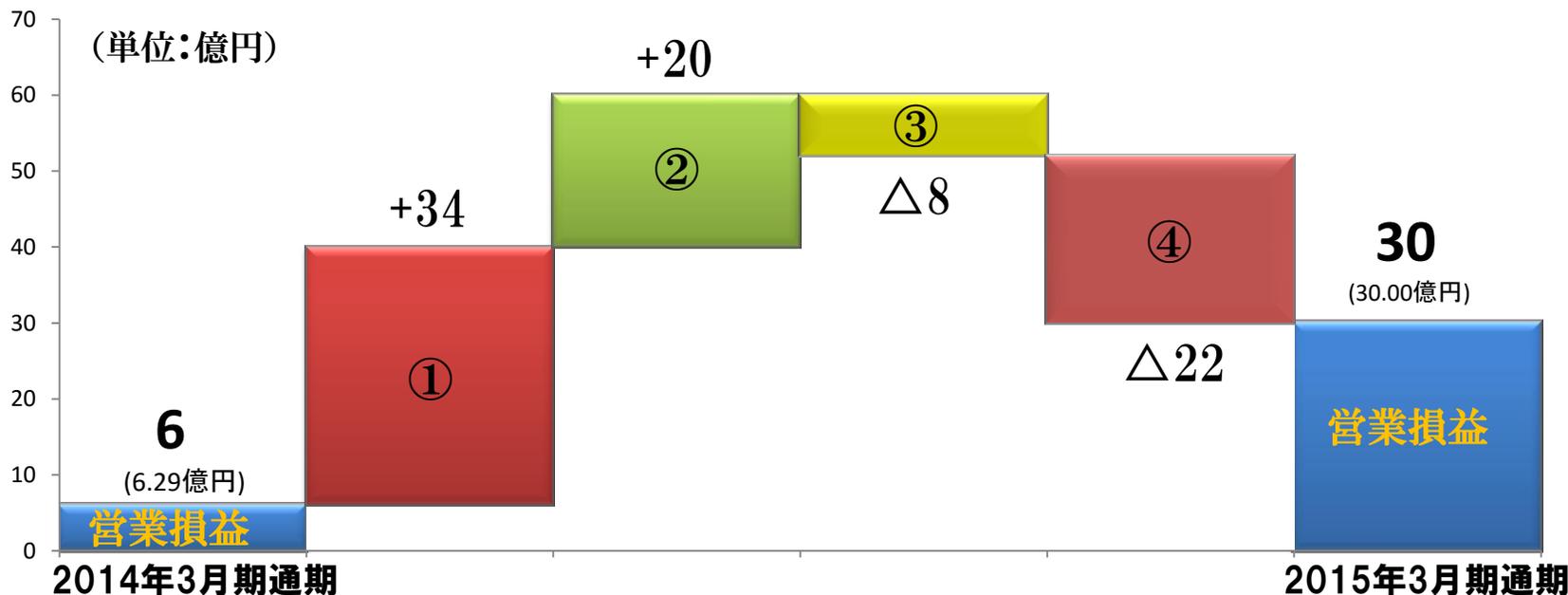
	2014年3月期 第2四半期 実績		2015年3月期 第2四半期 (5月12日発表)		増 減	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	76,095	100.0	72,000	100.0	△4,095	△5.4
営業利益	△1,682	△2.2	△1,500	△2.1	+182	—
経常利益	△697	△0.9	△1,500	△2.1	△803	—
当期純利益	△1,251	△1.6	△1,000	△1.4	+251	—
為替レート (対米ドル)	98円03銭		103円前提		4円97銭の円安	

■ 前期比 +24億円

- 1. 売上高の増加による付加価値の増加 +34億円
- 2. 事業ポートフォリオの入れ替えによる付加価値の増加 +20億円
- 3. 売上増加に伴った固定費増加をコスト削減で抑制 $\Delta 8$ 億円
- 4. 新製品増産投資による減価償却費の増加 $\Delta 22$ 億円

(単位:億円)

売上高	2014年3月期	2015年3月期	差額
情報通信端末	633	800	+167
車載	216	260	+44
ヘルスケア・生活家電	103	140	Δ +37
その他	622	450	172
合計	1,574	1,650	+76



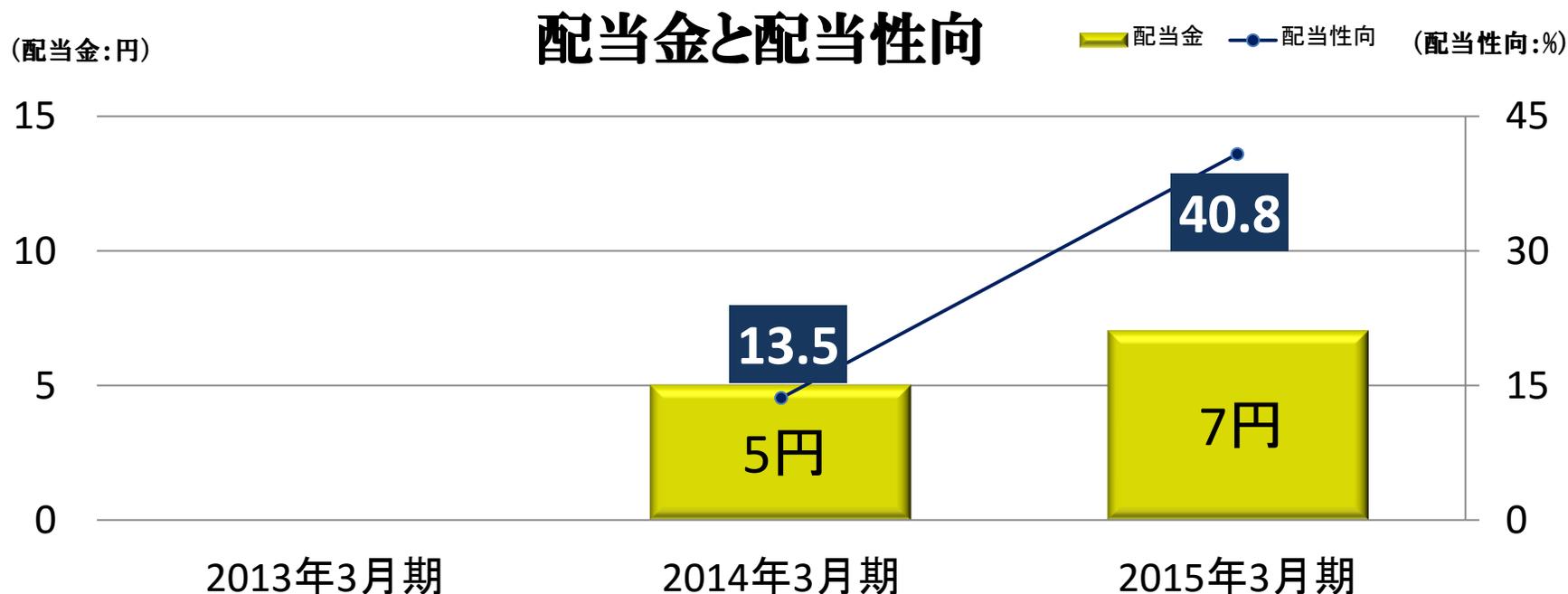
1. 設備投資 : 情報通信端末、車載、ヘルスケア・生活家電のなかでも市場占有率の高い製品および高い伸びを見込む新製品に投資を集中します。
2. 研究開発費 : スマホ向け次世代新機能部品、MEMS関連製品の開発投資を増額します。

	2013年3月期 (実績)		2014年3月期 (実績)		2015年3月期 (計画)		2014年3月期と 2015年3月期 の増減
	金額(百万円) 下段上半期実績	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期実績	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期計画	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期実績
設備投資	8,610 (5,235)	5.7	10,548 (5,773)	6.7	11,000 (8,000)	6.7	+452 (+2,227)
減価償却費	6,852 (2,854)	4.5	6,526 (3,100)	4.1	8,700 (3,600)	5.3	+2,174 (+500)
研究開発費	11,022 (5,411)	7.2	10,626 (5,128)	6.8	11,000 (5,500)	6.7	+374 (+372)

※ 設備投資実績はキャッシュフローベース

2015年3月期は、1株当たり7円(配当性向40%)配当を計画します。

2014年3月期は、1株当たり5円(復配)といたします。





今後の経営戦略

代表取締役社長

森部 茂

中期目標

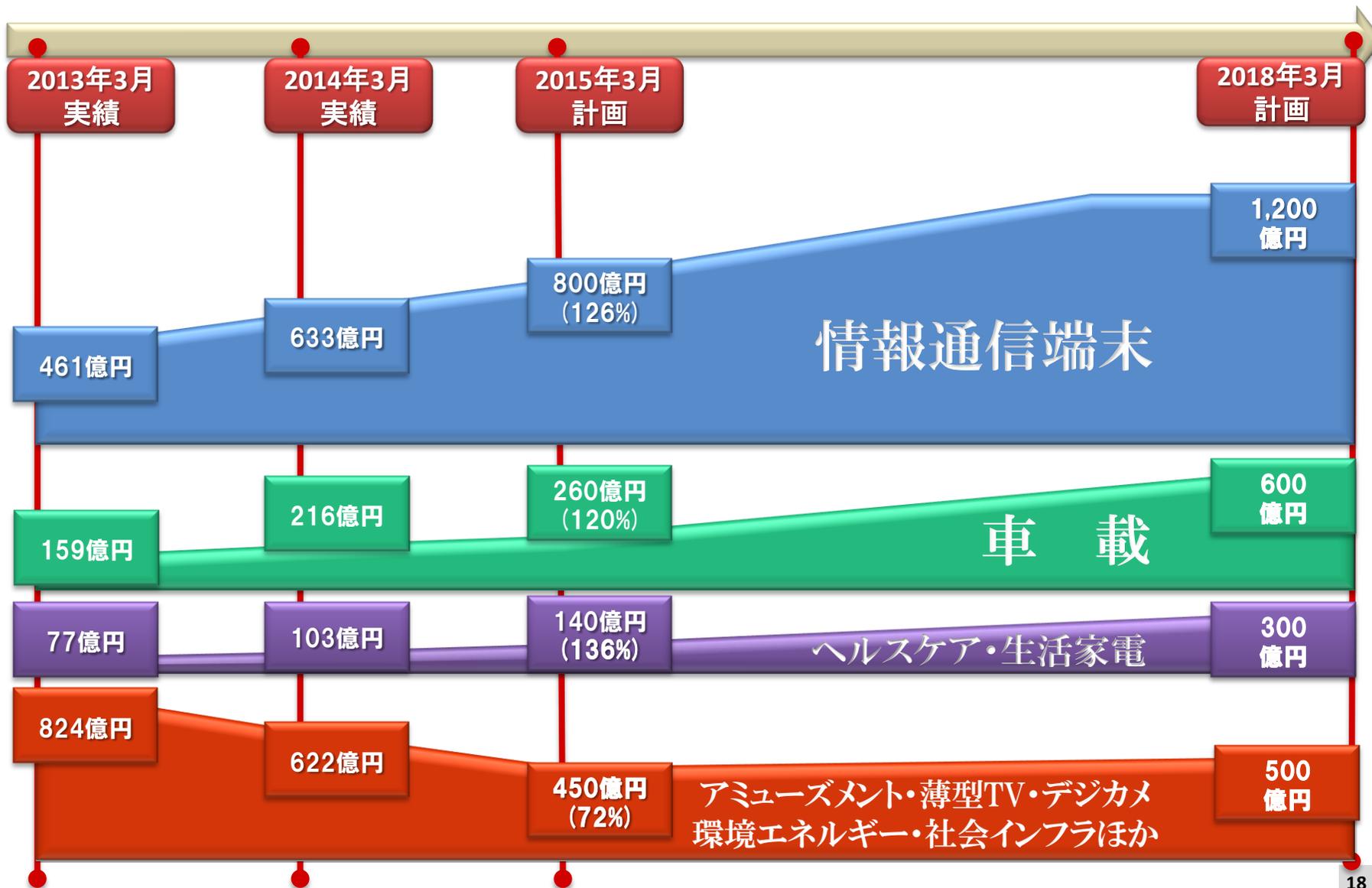
売上高3,000億円を回復する

方針

2014年3月期通期は売上高減少に歯止めを掛けました。
また、コスト削減と事業ポートフォリオ入れ替えを行い、黒字化を達成しました。

今後は事業拡大に注力します。

1. 世界中で高い市場占有率を持つ製品群にリソースを集中します
2. 他社に先駆けて新技術開発と市場投入を行います
3. 車載・ヘルスケア市場にAV・通信市場で培った技術を応用し
新たな事業領域を創出していきます



※実績・予測の()内は前期比

情報通信端末

2015年3月期計画800億円、中期目標1,200億円

市場成長率を上回る拡大継続

1. 拡大する製品群
2. カメラ用アクチュエータ事業の拡大戦略
 - ① 2015年3月期の事業拡大計画
 - ② カメラ用アクチュエータ市場動向
 - ③ OISの優位性

OIS: Optical Image Stabilizer

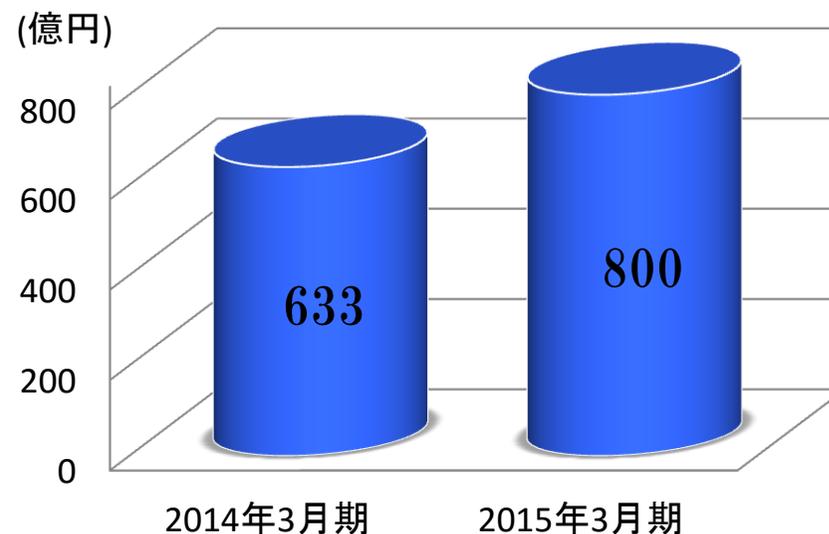
情報通信端末

2015年3月期計画800億円、中期目標1,200億円

1. 拡大する製品群

カメラ用アクチュエータ・半導体に加え、ACアダプタと精密加工製品(スイッチなど)を成長ドライバとして拡大していきます。

2015年3月期計画
前年比167億円増加(26%増)の800億円を計画しています。



情報通信端末

2. カメラ用アクチュエータ事業の拡大戦略

① 2015年3月期の事業拡大計画

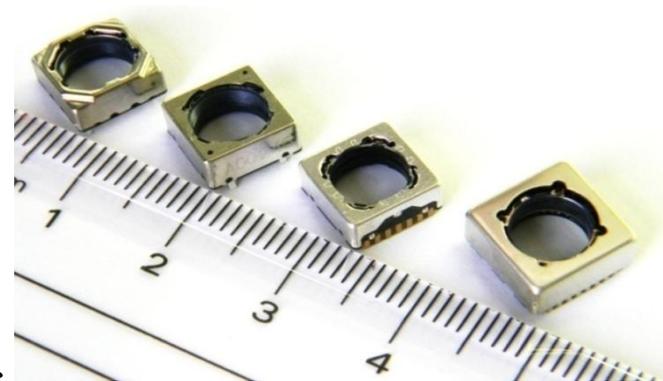
1) AF用アクチュエータは出荷数量を1.5倍に拡大します。

フルラインナップを揃えました。

- Closed Loop Type (位置検出型)
- Alternate Type (中点静止型)
- Standard Type (従来型)

2) 手ぶれ補正用アクチュエータ(OIS)は
出荷数量を3倍に拡大します。

現在、市場占有率は8割以上です。



情報通信端末

②カメラ用アクチュエータ市場動向

1) 需要予測(当社見込み)

	2013年	2014年	2015年
アクチュエータ全体	10億個	12億個	14億個
内OIS比率	3%	10%	20%

2) 求められる機能 : フォーカス高速化および位置精度向上、
手ぶれ補正機能

情報通信端末

③手ぶれ補正機能付きカメラ用アクチュエータ(OIS)の優位性

<撮影例>

明るい場所
(500ルクス)



暗い場所
(50ルクス)



車載

2015年3月期計画260億円 中期目標600億円

車載ビジネス拡大加速

1. 新たな製品群で事業領域拡大
2. 車載事業の体制構築
 - ① 車載に特化した事業部の設置
 - ② グローバルサポート体制の充実

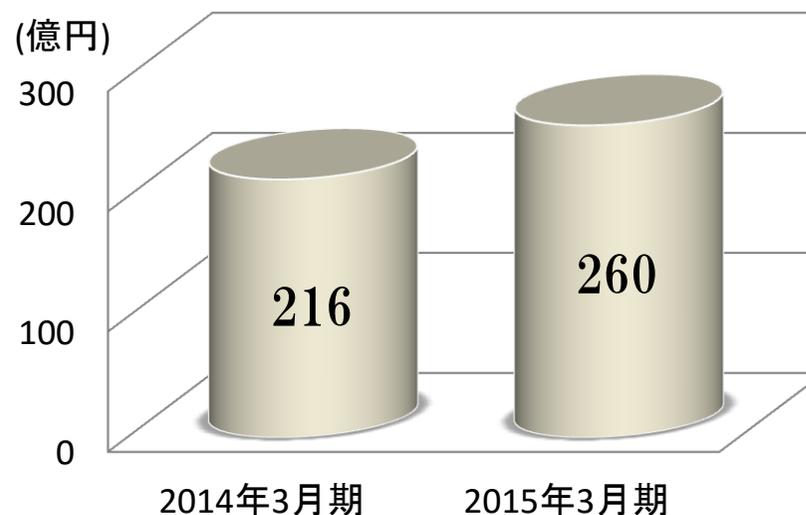
車載

2015年3月期計画260億円 中期目標600億円

1. 新たな製品群で事業領域拡大

計画通り売上高は拡大しています。

アンテナ・チューナ中心から
艀装品等の新たな製品群を
加え、事業領域を拡大して
いきます。



車載

2. 車載事業の体制構築

① 車載に特化した事業部の設置

2014年4月に車載事業部を立ち上げました。
自動車業界特有のビジネスプロセスに適合した
事業運営を行っていきます。

民生事業と混合した従来の組織から、
車載事業を専門に行う部門を切り出しました。

車載

② グローバルサポート体制の充実 技術サポート体制

自動車生産の主要地域に技術者をくまなく配置し、世界中で技術サービスを提供する体制を構築します。

1) 技術者の配置

日本・米国・欧州・中国・韓国・タイは完了しました。
メキシコも今期中に配置を完了します。

2) 実車測定可能なアンテナテストサイトの設置

日本・米国・タイ(同国内唯一)に設置済です。

3) 製品開発体制

日本・中国・米国では、独自で開発できる体制を確立しました。

車載

② グローバルサポート体制の充実 生産体制

中国・タイ・フィリピン・メキシコの4拠点体制で最適生産を行います。

- 1) 中国・天津工場は、車載部品専用工場へ転換いたします
- 2) メキシコ工場は、2014年4月から稼働を開始しました

ヘルスケア・生活家電

2015年3月期計画140億円、中期目標300億円

ヘルスケア・生活家電(血圧計・シェーバー・電動歯ブラシ等)向けに最適化した専用部品を提案・提供しています。今後は、OEM・ODM事業としてセット製品の生産を手掛け、事業を拡大してまいります。

血圧計に採用されている当社部品

MEMS圧力計、吸排気用ポンプモータ

ACアダプタ電源、電源用IC



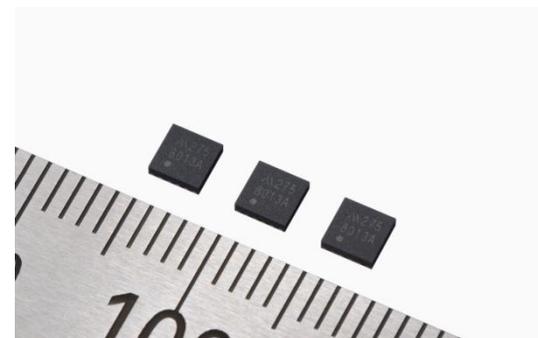
半導体事業

半導体事業の黒字化

厚木前工程の稼働停止・後工程工場の見直し等によるコスト削減、
戦略製品の市場投入による売上拡大により、今期は営業利益段階で黒字化します。

電池保護IC 日立超LSIシステムズ社の保有技術
との相乗効果と、当社保有のOTP技術
を使ってトップシェアを維持する。

電池監視IC 戦略製品を市場に投入する。



OTP: One Time Programmable read only memory



IRに関する問い合わせ先

ミツミ電機株式会社
総務部 広報・IRグループ
TEL:042-310-5224
FAX:042-310-5168
Mail :prwmaster@mitsumi.co.jp